
加熱した猫

植崎健太郎

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

加熱した猫

【Nコード】

N7435A

【作者名】

植崎健太郎

【あらすじ】

猫を虐待するのが趣味だった男がある日体験する恐怖のサスペンスホラー。

猫を拾った。

洗濯機に入れて脱水をかけてみた。

猫は首や手足が変な方向に曲がり、動かなくなっていた。

また猫を拾った。

熱した油をかけてみた。

数秒間たつと猫は動かなくなっていた。

また猫を拾った。

冷凍庫に入れた。

一晩たつて開けてみると凍って動かなくなっていた。

また猫を拾った。

電子レンジに入れて三分間加熱した。

猫はいなくなっていた。

不思議に思ったがどこにもいない。

諦めて眠ることにした。

猫の夢にうなされたような気がした。

もう猫を虐待するのはやめようと思った。

仕事に出かけた。

朝からやたら猫が飛びつきひつかいてくる。

もう虐待しないからと思いながら必死で逃げ、なんとか会社についた。

自分のデスクのパソコンを立ち上げると壁紙が無数の猫だった。

誰かのいたずらか？

普通の風景の壁紙に戻した。

OLがお茶を持ってきた。

お茶の中に毛が入っていた。

人間の髪の毛では無かった。

もつと細く短い毛だった。

昼休み、社員食堂に行きチキンカレーを頼んだ。

鶏肉に混ざってすごく固い肉があった。

ラム肉か何かか？

昼休みが終わり仕事場まで戻った。

パソコンの壁紙が無数の猫になっていた。

また普通の風景に戻した。

外を見ると猫が爪で窓をひっかいていた。

ここは7階だ。

どうやって登ってきたんだ？

仕事が終わりに会社を出た。

帰りにレンタルビデオ屋によった。

今話題のコメディ映画を借りた。

家に帰ってさっそくビデオを再生した。

内容はコメディ映画とは全く関係ない。

近所の風景だ。

猫がたくさんいる。

気味が悪くなりビデオを停止した。

お腹が空いたのでコンビニまで出かけた。

コンビニ弁当とお茶を買った。

「こちらのお弁当温めますか？」

「はい」

「640円になります」

「10000円で」

「9360円のお返しです。少々お待ち下さいませ」

ピー、ピー、ピー。

ガチャ。

店員が悲鳴をあげた。

レンジの中には3匹の猫の死体と1匹の猫がこちらを見ていた。こちらを見ていた猫は家の電子レンジから消えた猫だった。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n7435a/>

加熱した猫

2010年11月10日10時42分発行